

研究・調査報告書

| | | |
|---|--------|--------------------------|
| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
| C-740 | 17-003 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之 |
| 題名（原題／訳） | | |
| Differences in Characteristics and Outcomes Between Asian and Non-Asian Patients in the TIAregistry.org. “the TIAregistry.org.”におけるアジア人と非アジア人の特性及びアウトカム比較 | | |
| 執筆者 | | |
| Hoshino T, Uchiyama S, Wong LKS, Sissani L, Albers GW, Bornstein NM, Caplan LR, Donnan GA, Ferro JM, Hennerici MG, Labreuche J, Lavallée PC, Molina C, Rothwell PM, Steg PG, Touboul PJ, Vicaut É, Amarenco P; TIAregistry.org Investigators. | | |
| 掲載誌 | | |
| Stroke. 2017 Jul;48(7):1779-1787. doi: 10.1161/STROKEAHA.117.016874. Epub 2017 Jun 5. | | |
| キーワード | | PMID |
| 脳梗塞、集団、予後、人種（アジア人）、一過性脳虚血発作（TIA） | | 28584002 |
| 要旨 | | |
| 目的： アジアにおける一過性脳虚血発作（TIA）および小さな脳卒中の、近年における原因と予後を明確にし、非アジア人集団と比較すること。 | | |
| 方法： “The TIAregistry.org”データベースにおいて発症 7 日以内の TIA または小さな脳梗塞患者 4,789 人（アジア人 1,149 名、非アジア人 3,640 名）を対象とした。全ての参加施設は専門家による TIA/脳卒中の緊急治療設備を整えている。主要エンドポイントは（TIA/脳卒中発症後の）心血管系死亡、非致死性脳卒中、非致死性急性冠動脈症候群の複合アウトカムである。 | | |
| 結果： 全対象患者の約 80%が発症 24 時間以内に診断的評価を受けていた。発症から 1 年後の時点でアジア人と非アジア人とで、複合アウトカムおよび脳卒中の発症率に差を認めなかった。複合アウトカムはアジア人 6.8%、非アジア人 6.0%（P=0.38）、脳卒中でそれぞれ 6.0%、4.8%（P=0.11）。非アジア人と比較してアジア人は（続発性）脳血管疾患（脳卒中、TIA）のリスクが低く（調整ハザード比、95%信頼区間：0.79、0.63–0.98；P=0.03）、その差はおもに続発性 TIA が低いことに由来した（アジア人 4.3%、非アジア人 8.4%、P<0.001）。中程度の重症出血の頻度はアジア人で高かった（アジア人 0.8%、非アジア人 0.3%、P=0.02）。多変量解析では多発性急性脳卒中（P=0.005）と飲酒（P=0.02）とがアジア人における脳卒中再発の独立した危険因子であった。一方、非アジア人の危険因子は以下であった：頭蓋内狭窄病変（P<0.001）、ABCD ² スコア（P<0.001）、心房細動（P=0.008）、頭蓋外狭窄病変（P=0.03）、脳卒中または TIA 既往（P=0.03）。 | | |
| 結論： TIA や小さな脳卒中発症後に科学的根拠に基づく救急治療を行った場合、短期的な脳卒中の再発リスクは予想より低かった。この傾向はアジア人・非アジア人に関わらず同様であった。その一方、予測因子はアジア人と非アジア人とで異なっていた。 | | |